

環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼No	4	事例No	1	依頼者	岡崎市立六ツ美中部小学校	実施場所	愛・地球博記念公園内「もりの学舎」
実施対象	小学3年生2クラス（39名）						
実施日時	令和3年10月5日（火）10時30分～13時30分						
テーマ	昆虫や動物のすみかであり、人間にとっても大切な場所である森や山の環境を学ぶ。						

●依頼内容

理科と総合の時間を合わせて行っている「山に棲む生物の生態について」の授業の一環としての環境学習の講師を紹介してほしい。SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」とも絡め、森林伐採などですみかを追われてしまっている動物についてもふれ、自分たちに何ができるのかを考えさせたい。

●講師：水谷 央 氏（特定非営利活動法人もりの学舎自然学校 代表理事）他、もりの学舎インタープリター5名

水谷氏は自然素材を使用した体験講座等を実施しており、アクティブ・ラーニング型の国際水教育プログラム「プロジェクトWET（Water Education for Teachers）」のエducーター（一般指導者）でもある。また、「もりの学舎」インタープリターの方々は、日頃から自然素材を使用した工作教室等、自然について学ぶ体験講座を行っている。

●授業の内容

事前説明	はじめに、講師である「もりの学舎」インタープリターの自己紹介、「もりの学舎」の概要と森の中での活動に関する注意事項の説明が行われた。	15分
環境学習①	クラスごとに森の中に入り、その道中で見つけた虫や植物の名前とその特徴等について、インタープリターから説明を受けた。この森にはキツネ、ネズミ、コウモリ、リス、モグラ、アライグマ、ウサギ等、多くの動物が棲んでいることやそれらの動物が何を食べているのかを学んだ。また、動物たちを直接見ることはなかなかできないが、クリの実の殻はイノシシが食べた跡であること、マツに付いた泥はイノシシが体をこすった跡であること等、森に残された痕跡からどんな動物が棲んでいるかがわかることを学んだ。さらに、リスが冬に向けてドングリを集めて隠す「貯食」を体験するゲームを行った。	75分
環境学習②	昼食後、生き物の生態や生き物同士のつながりを考えるゲームを行った。子どもたちは2～3人のグループをつくり、与えられたカードに描かれたイラスト（鳥、虫、人間、太陽など）と関係のあるもの（エサ、巣の材料など）を考え、「もりの学舎」の広場周辺で探した。その後、グループごとに何を見つけたのか、それはイラストのものとどういう関係があるのかについて発表し合った。子どもたちはゲームを通して、それぞれの生き物がどんな暮らしをしているのか、また、太陽の光や水、木の枝・葉・実と、さらには生き物同士でつながりあっていることを学んだ。ゲーム終了後、集めたものを元の場所に戻し、授業を終えた。	45分

●授業の様子

子どもたちは森の中を元気いっぱい散策し、木の枝やドングリ、マツボックリを拾っていた。散策中に見つけたガの幼虫や森に棲んでいる動物についての説明が始まると、子どもたちは驚いたり、質問をしたりしながら真剣に聞いていた。また、リスの「貯食」を体験するゲームや生き物のつながりを考えるゲームでは、子どもたち同士で相談しながら、楽しそうに取り組んでいた。

森を散策しながら、森に棲む動物について学んだ。



生き物の生態や生き物同士のつながりを学んだ。

